

フォートウェイン市パークビュー病院と高岡市民病院の医療交流開始

1977年、高岡市とフォートウェイン市(インディアナ州)は姉妹都市となってさまざまな分野で交流が行われてきました。2012年、姉妹都市締結35周年を記念して高橋正樹高岡市長を団長とする使節団が同市を訪問された際、友好関係のさらなる発展のために今まで行われなかった医療分野での交流の話が持ち上がりました。多くの方々のご尽力の結果、今回の高岡市民病院とフォートウェイン市パークビュー病院との医療交流が実現する運びとなりました。

パークビュー病院は8つの病院群を所有し、フォートウェイン市のあるアレン郡ばかりでなく、北東部インディアナ州、北西オハイオ州におよぶ15郡市を医療圏とするパークビューヘルスケアという一つの民間企業体です。その医療圏の対象人口は890,000人におよび、直接雇用している医師は約315人、さらに86人のミッドレベルナース(医師の指示で医師と同等の医療行為ができる看護師)、8,700人のスタッフを抱える病院群です。今回の交流先は2011年に約500億円の費用をかけて近代技術の粋を結集して竣工したばかりのフォートウェイン市郊外に位置するパークビューレジオナルメディカルセンター(Parkview Regional Medical Center、PRMC)に決定しました。PRMCは病床数が446床と高岡市民病院と大差はありませんが、病室はすべてゆったりとした個室となっており、その規模は大きく異なっています。さらに、24時間365日の救急部門、高度集中治療部門、成人および小児の外傷センター、心臓センター、脳卒中センター、がんセンター、産婦人科・小児科部門、整形外科部門、救急ヘリコプター2機を持つ救急部門など超急性期医療を含むすべての医療部門を備える超近代的な病院です。

2013年10月6日から10月14日の日程で、本院の遠山一喜副院長、地域連携室岡野純代看護主任、高桑功一郎研修医の3名がPRMCを訪問することとなりました。もとより日本とアメリカの医療制度は大きく異なっており、また、自治体病院である高岡市民病院と民間企業体であるパークビュー病院とでは様々な点で違いはあると考えられます。しかし、お互い患者さん中心の質の高い安全な医療を目指しており、さらに地域医療に深くかかわっている点など多くの共通点があります。規模の違いはあっても今回の医療交流でお互い多くの点で学ぶべきものが多く大変意義深いものと考えられます。

PRMCでの医療交流は、10月7日月曜日から金曜日まで5日間行われました。今回は初めての医療交流でもあり、お互いの医療制度や医療状況を理解するために次のようなテーマで討論が行われました。

- 1.医療制度と医療保険制度、
- 2.医学教育と研修医制度、
- 3.看護体験、
- 4.医療の質と安全、
- 5.救急医療体制、
- 6.外傷救急とその体制、
- 7.心疾患救急とその体制、
- 8.脳卒中救急とその体制。

お互いの医療をプレゼンテーションしながら疑問点や日米の相違点

に関して話し合い、医療分野での理解を深めました。プレゼンテーション終了後は救急部門、外傷センター・サマルタン救急ヘリコプター部門、手術部門、集中治療室部門、放射線診断部門などの視察を行いました。すべての部門で病院幹部をはじめ責任者のみなさんが懇切丁寧に対応していただき非常に感謝するとともに有意義な交流を行うことができました。

パークビュー病院は、医療の質と安全、患者満足度、成長戦略および経営基盤と人的資源などを常に意識し、全米の病院においてトップ10%以内の質の高い病院を達成することを明確な目標としています。その目標達成のためにあらゆる分析的ツールを使用し、計画的、組織的、戦略的かつ定量的に分析を行い、目標を立てて実践し、さらに見直すというPDCA cycle (plan-do-check-action cycle)によって具体的な行動を常に実践しています。心不全治療を例にとっても最も効果的で治療成績が上がり、医療の質も安全も高く、患者満足度も高く、コスト面でも最小となる戦略を実践しています。これらはリーン生産方式という戦略ツールですが、もともとトヨタ方式などで日本の企業のお家芸ですが、日本の医療分野では立ち遅れている点です。これらは私たちが大いに学ばなければならない点だと思われました。また、私たちに応対してくれたスタッフが皆自分の仕事に誇りを持ち生き生きと仕事をしており、スタッフのモチベーションが非常に高いと感じられました。また、パークビュー病院は人的資源も豊富でそれぞれの仕事の役割が明確になっており、チーム医療が確立している点も印象的でした。高岡市民病院とパークビュー病院では経営基盤、医療制度や環境など多くの点で相違はありますが、医療の質と安全、患者さんの満足度、職員満足度等の向上、地域医療への貢献さらに経営基盤の安定など目指す医療は共通です。今後のさらなる医療交流によってお互いが切磋琢磨することを願っています。

また、医療交流の時間の合間を縫って、フォートウェイン市のトム・ヘンリー市長および姉妹都市のトム・ハー会長を表敬訪問し、高橋市長の親書を手渡しました。皆さん今回の医療交流実現を心から歓迎してくれました。

今回の医療交流で多くの点を学ぶことができ、非常に充実した有意義な訪問となりました。医療交流の実現に尽力していただいた高岡市民病院、高岡市役所の関係者の皆様はもちろん、フォートウェイン市姉妹都市関係者の方々をはじめパークビュー病院関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

2013年11月
高岡市民病院 理事 副院長
遠山 一喜